

第2回 南部町地域福祉計画策定委員会 議事録

日時 令和元年12月19日(木) 10時00分～11時20分

場所 南部町総合福祉センターしあわせ会議室

(進行：糸田課長)

1 開会（委員長開会あいさつ）

(佐藤) 福祉関係の方々が日夜努力されているにも関わらず、痛ましい出来事が絶えない。

これから策定する計画が、こういった痛ましい事案を1つでも2つでも未然に防ぐことができるような、実のある計画にしていかななくてはいけないと思う。

皆さんの長年の貴重な経験や知識あるいは知恵を貸していただき、真に南部町民に資する計画にしたいと強く思っている。どうぞよろしくお願いします。

(進行：佐藤委員長)

2 協議事項

(1) 南部町地域福祉計画改定の進捗状況について

(2) 南部町地域福祉計画策定スケジュールの変更について

→事務局より、資料に基づき説明。

(桑名) 団体のヒアリングを7～8月で集中的に実施する予定であったが、事務局の準備不足並びに見通しの甘さ、及び対象団体を増やしたことにより、以降の予定がずれ込むことになった。最終版の完成は9月になろうかと思う。原案については7月末を目途に策定を完了したい。ヒアリングを通じ、色々な地域課題が明らかになってきた。丁寧に分析して、できること・できないことを整理し、5年後10年後の南部町をどのようにしていくかということ各関係機関と協議しながら、計画を策定していきたい。

来年1-2月に企画政策課主催の円卓会議が予定されており、福祉については必須の議題となっている。地域の課題については、円卓会議終了後にとりまとめを行いたい。

(原) 団体ヒアリングの結果で地域が“5”となっているが、7つの地域振興協議会（円卓会議）との関連は。

(桑名) 今まで協議会でヒアリングをさせていただいたのは、主に福祉活動をされている役員等。円卓会議は区長（評議員）の立場で感じられていることをまとめていきたい。円卓会議を地域の意見を拾う一つの機会ととらえていただけたら。残りの地域は、東西町はまちづくり計画のアンケートを活用させていただきたい。大國及び天津は日程の調整がつかなかった。ヒアリングができていないところについては、今後調整をかけていきたい。

→スケジュールの変更について、挙手により承認された。

(3) 地域福祉計画の構成について

→事務局より、資料に基づき説明。

(桑名) この計画は町と社会福祉協議会と共同で作っていきたい。地域福祉計画というのは主に行政が何をすべきかを書き記す計画。地域福祉活動計画というのは社協をはじめとした民間の事業者が作りあげる計画だが、共同で推進体制がとれる計画にしたい。総合的な南部町の地域福祉推進のための計画ということで、「南部町地域福祉推進計画」という形で作成したい。

計画の構成は、第1章-第7章。1-3章は、計画策定の趣旨等。第2章は、計画の法令上の位置づけや町の各種計画との体系を示す。第3章は、地域の現状についての各種データを示す。第4章は、ヒアリング等で出された地域課題を示す。第5章及び第6章は、計画の一番大事な基本的な考え方。第5章は骨子で、地域課題に対して、どのような進め方をすれば町の地域福祉が推進できるのかという方向性を示す。第6章は、計画の具体的な進め方、各主体がどのような取り組みをしていけばいいのかということを示す。第7章は、進行管理や見直し・点検について。

(佐藤) 計画の名称は「地域福祉推進計画」に変更になるのか。また、委員会の名称は変更があるか。

(桑名) 計画の名称は「地域福祉推進計画」へ変更、委員会の名称は変更なし。

(唯) 印刷製本したものは、全戸配布か。

(桑名) 計画全体は80-100ページになる予定。ダイジェスト版を作成し、全戸配布する。詳しい内容が見たいという方には、町内の施設や協議会の事務所に設置し、縦覧してもらえようとする。ホームページにもアップし、周知をしていきたい。

(唯) 法令等の記載が多くわかりにくい。省略しては。また、本文中の文章や単語の記載に齟齬が生じている。点検をお願いしたい。

(原) 書面で提示し、手入れをしてもらおうようにしてはどうか。

(佐藤) 3月の委員会で文言の統一や表現を一括で修正しては。

(唯) そのようであれば、資料配布は早めにしてもらいたい。

(佐藤) できるだけ早く資料を委員に届け、当日議論をしていきたい。

(内藤) 協議会のあり方をこの場で議論していただきたい。これからの町の地域福祉を展開・活動していくのに、社協の役割と協議会の役割を議論し、協議会はどういう形で地域福祉に取り組んでいけばいいのか、勉強し直してみたい。それが最終的につながっていくようになると思っている。南部町には協議会があり、その存在について町長も、最近「地域福祉・防災」に特化して欲しいと言われる。

(井上) ヒアリングは7つの協議会のうち5つしか開かれていないということだが、聞かれたところの意見は出して欲しかった。各団体のヒアリング結果を見ると、協

議会との関わりの部分が多数出ている。我々、協議会側も意見を出しているのに、それらも併せて総合的に協議をすべきだと思う。

計画の位置づけも本当にこれでよいか迷うところだが、我々も地域の中で一生懸命福祉に取り組んでいるので、もうちょっと連携を密にする必要がある。

- (唯) 協議会へ期待することが多すぎて、本当にできるだろうかという話をする。地域住民の自助・互助・共助・公助、それが福祉の元だと思う。
- (内藤) 協議会は自助と互助の部分が中心、日常の活動をどういう風にやっていくのか。南部町の場合は、うまくいっていないところが現実にある。皆で話し合っただけで、やれる工夫がたくさんある。協議会の活動をやっていく上で足かせが多くて、やりたくてもできないこともある。
- (井上) 協議会の中でも福祉の考え方等変わる。それを一緒にやろうという動きが今までなかった。これは協議会の問題なので、協議会の中で協議すればよい。その意見を取り込むような計画にしてもらいたい。
- (松田) それぞれの協議会ごとにそれぞれのやり方なり特徴なりがあって、計画に一律な形で書き込むのは難しい。ある程度一致できる部分を書き込まざるを得ない。協議会によって“できる・できない”もあるだろうが、現実ばかり見た計画でもいけないので、目標という部分は今後作り込んでいくときによくやり取りしながらしていただけたらと思う。
- (山中) 色々な計画を見ていて、受け手の人の施策はあるが、減ってきている担い手をどう出していくのかということも同時にやっていかないと実効性が伴わない。住民の方々が、このまちで暮らしたいのか、そう思っているけどできないのか、そのあたりがわからない。国など、もっと広い範囲で分析をしているような意見も総合的に取り入れては。そのあたりも考慮した計画を。
- (原) PDCA が回っていない。要望だけ出ているけど、「誰がやるのだ」ということを示し、しっかり評価しないといけない。見直し・評価をしっかりやっていただきたい。
- (唯) 色々書いてあるが、誰がするのかと思う。役員など兼務している人が多い。人材育成の考え方が最初に欲しい。
- (垂水) 一番大事なのは地区のつながり。集落がしっかりやっているところは心配ない。どのように地区の住民をカバーしていくかというのが大事ではないかと思う。
- (内藤) 集落は基本。その集落の集合体が地域振興協議会。
- (竹川) 今の議論について整理する必要があるかと。本計画が来年形になるが、その際考えられないといけないことは、まずは家庭から始まって、集落、地区、そして全町という形で、それぞれの社会集団の中で、どういう風に福祉を担っていくのかという議論が必要になってくると思われる。高齢化・人口減少が進んでいく中で、家庭や集落でこれまでできてきたことができなくなっている現状がある。その問題をどう解決するのかというときに、12年前に生まれたものが南部町では地

域振興協議会であった。集落もちろん大事だけれども、集落を持続可能なものにしていかないと、これから集落であれもこれも担えない時代が来るので、計画の中では集落と地区の機能分担をしないといけないと思う。集落には活動をしっかりやっていただきつつ、新たな課題については協議会がしっかり対応していくというような役割分担が必要であろうと思う。また、新たな担い手としてボランティア団体、NPO あるいは社会福祉法人が地域貢献をするとか、新たな形で様々なネットワークを作って解決する仕組み等を構想していく必要があるかと思う。これからの時代を考えたときに、集落機能に頼りきることは非常に難しいので、協議会が集落をカバーしながら、集落も支えつつ、新たな課題に対応できるよう機能強化を果たしていく。これは必須条件ではなかろうかと思う。そのためには担い手が絶対必要で、担い手をどう育成し、そしてその担い手が協議会にしっかりと根付いて、協議会の力が増していくような構想を計画の中に立てる必要があると思う。

担い手に関しては、スクラップ&ビルドが必要。色々な役を棚卸しして、本当に必要なものを残していくというような形をとらないといけないのでは。すぐにはできないし時間もかかるが、地域を担っている方の肩の荷を少しずつ小さくしながら、新たに人を掘り起こしていくよう同時進行をしていかなければいけないと思う。福祉を通じて新たな担い手を掘り起こし巻き込んでいき、そして地域を元気にする色々な手法が考えられると思う。そういうことにアイデアを尽くし、計画の中に盛り込むことがこれからの我々の仕事と思う。

(井上) 福祉は循環の中で動いていると思うので、私は担い手を心配していない。協議会の中で各集落のハードルの調整役をするが、今の南さいはく地区の流れを見ると、若い人たちが高齢者を見るのはなかなか難しい。一世代一世代が順繰り回っていくような、そのような考え方を取り入れられれば、担い手については基本的に心配する必要はないと考えている。あまり下の世代ではなく 25 歳くらい、その流れを平行移動させるという考え方を取り入れて活動している。

(遠藤) 担い手の問題であるとか、あるいは機能をどうするのかということについては、お互いにどうしていくのかということ仲間同士で話し合う中で見えてくるものがあるのではないかと思う。

(佐藤) この話題はひとまず終了とする。先生のおっしゃったことを理解していきたいと思う。ヒアリングの結果が出ていないということに対しては、いかがか。

(桑名) 内部で話をさせていただきたいと思うが、円卓会議を待たず要望があれば郵送させていただくがいかがか。

(佐藤) 円卓会議が終わってから総合的にお渡ししたほうがいいかもしれない、そうさせていただく。

(4) 関係団体等ヒアリングについて

→事務局より、資料に基づき説明。

(竹川) 確認だが、ヒアリングの要旨は、計画に載せないという判断か。(桑名：載せる)
団体が発言されたことには、行政や社協に対しての提言もされている。一つ一つの言葉は非常に重い。計画の流れからいうと、ヒアリングの要旨を資料編にまとめていただき、その上でヒアリング結果から共通項と共通はしていないけれど今後絶対必要だという課題を計画の前段に落とし込んでいくという形が良いのではないかと思う。

(垂水) ヒアリングでの要望を実行することについては、どのように考えているか。

(桑名) 実際にできること・できないことは出てくると思うが、意見としていただいた地域課題にいかに対処していくのかということとは検討していく。

(垂水) 期待している。

(竹川) 私もヒアリングに可能な限り参加させていただいているが、その中では具体的に解決策まで議論している。その解決策をいかに実現していくのかというところで意見を頂戴しながら、合意形成ができる部分は計画の中に位置づける。そういうふう動き出していると思っていただいて結構かと思う。いただいた意見から、新しい取り組みを生み出していくヒアリングであると理解いただければと思う。

(森岡) 専門職の団体に相談支援と就労支援と障がいサービスを担当していたので、ヒアリングに参加した。具体的な障がいのある方に対してはどういうことができるのか、本当に具体的なところの話ができ、こういうしたらいいのではないかというところまで話をさせてもらっている。このヒアリングの文面からはちょっと感じられないところがあって、もちろん全部載せるわけにはいかないのわかるが、思いがどこまで入っているのかと思うところはあって、そのまま意見として載せられると、微妙に意図と表現で違い、なんとなく引っかかるところがある。

(佐藤) ヒアリングの項目をまとめたものを団体へお返しして見ていただき、足らなかった意見を書いてもらうということをしたらどうか。

(竹川) かなり雑多な議論をしているのでポイントを絞って書かざるを得ないのは致し方ない部分もあると思うが、やはり団体として言いたいことはあると思うので、確認を取られたら良いと思う。

(糸田) まとめすぎてしまったところもある。ヒアリングさせていただいた団体へお返しして、確認いただき漏れがないようにしていきたいと思う。また、新たな意見等も頂戴できればと思うので、そういった工夫をしてみたい。

(5) その他

(桑名) 先の説明で、計画の推進にあたり、行政の役割、社協の役割、地域の役割を体系的に整理したものを町民の皆さんへお示ししたいと話をした。どのような形でお示しするのかという参考例として、資料 47 ページを参照されたい。

(井上) 「民間」というのは、行政以外の全部が民間というくり方か。

- (桑名) 書き方の工夫をとというご意見があれば、こちらの表記は考えたい。
- (原) 誰がいつまでにやるという目標を示した方がいいと思う。タイムスケジュール的なものを入れておいてはと思う。
- (唯) 総合計画も事業・概要・実施時期・各担当課となっている。こういう計画を作られたら実施時期を明確に。その方がやりやすいと思う。
- (桑名) 町民の皆さまに見ていただくために、こういう形で整理をしているが、実際に計画策定したあかつきには、誰がいつまでにやるという目標みたいなものを別でお示ししたいと思う。表のような形で次回の会議でお示ししたい。
- (佐藤) 指摘のあった「民間」という言葉については考えていただく。
- (内藤) それに関連して、「地域を単位とする福祉活動の充実」というテーマに違和感がある。もう一度慎重にこの文章と内容について検討されたい。
- (佐藤) 行政と民間の間に線が引っ張ってあるというところが、ということですね。簡単に言えば（協議会：違和感がある）。
- (原) これは、以前（の計画は）は、個人でやる、地域でやる、行政、その他の機関、その他と非常にわかりやすくしてあってということだと思う。これ（本計画案）は2つしかないから。自助・共助・公助だということもあるのではないかと思うので、書き換えていただければと思う。
- (佐藤) そのほかで何かあるか。
- (唯) 最後になるが、町民へ配布されるときに、閉じこもり・引きこもりの方へ各種団体の紹介、例えばノームの糸車はこんな仕事ができる、いくら郷はこんなことができる、というような紹介記事を作ると直接行ってみようというのも出てくる。
- (佐藤) 色々な角度から広報するという意味では、そういう点も良いかと思う。検討されたい。

3 閉会

- (佐藤) 以上をもって、皆さんの活発なご意見をもとに終了とさせていただきます。おつかれ様でした。